

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留幸
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし

28: この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。
 29: そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差

し出した。
 30: イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。
 (ヨハネによる福音書 19章 28～30節)

教会がそして疲れる人々が聖霊によって強められる時

受難週 メッセージ

ヨハネによる福音書 19章 28～30節

成し遂げられた御心

あがないこそが父の御心

受難節の中、私共はイエス・キリストの御苦しみと御死を記す御言葉を繰り返し読み返してまいりました。そしてここに示される事柄が詩編22編やイザヤ書53章など多くの旧約の言葉に結び付くことを信仰をもって受け取ってきたのです。聖書はわたしたちについて証しをするものだ。(ヨハネ5:39)という主イエスの言葉を思い起こしながら、主御自身がこれらの事柄を担い、父なる

神の御心がそこに成し遂げられてゆく有様を私共は信仰によって見せていただいているのであります。今、与えられております御言葉もイエスさまの十字架での最期を記したものであります。わずか三節の御言葉でありながら、ここにイエスさまの地上での御生涯とその御業が集約されていると受け取ってもよいであります。十字架の苦しみと痛みの中で主が語ら

れた二つの言葉と死に向かわれる様子が示されている部分です。ここには三度同じ意味の語が出てまいります。成し遂げられた、「実現した」という言葉です。口語訳では「終わった」と訳されておりましたが、「終える」「完成する」という意味の言葉です。28節に主イエスは死に際し、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた」と記されています。29節の酸いぶどう酒を人々が主イエスに飲ませようとしたこ



静岡教会 (東海教区・中静分区)

とく合わせれば詩編22:16や69:22の御言葉の成就であり、主が辱めと苦しみを担われたことを私共は深く知ることが出来ます。ヨハネは聖書の言葉が成し遂げられたことを示しています



佐々木美知夫

私共はそれぞれの人生を歩みますが、人生を完成して終わる(成し遂げる)などということは到底考えられません。人として自分の納得に於いても、人々に対しては神の前に、十分どころか本来終わるに終われない状態です。

主がそれを完成し下す

行かねばならない者です。とりわけ人生の意味について、悲しみや苦しみについて、自分の罪については自分の力で解決や希望を持たない者です。自分という存在であり、自分の人生であり、自分の問題でありながら私共はそれを本当には担

主の愛に預かる

30節には「成し遂げられた」という主の言葉があります。そして主の死が告げられています。この言葉と事実は常に主の救いの御計画が私共の中に実現していることを示すものです。

また主の復活と共に、再臨の日まで私共が導かれて行くことを指し示しています。受難週を迎える毎にあらためて神の御心の測りがたさを思います。自分のような罪深い者、神に背く者を

が、それは主イエスとその御生涯を歩み通し、十字架の上で御自分の肉を裂き、御自分の血を流して立てられた私共のあがないこそが父の御心であったことを明らかにするものです。

うことができません。しかしそのような私共に対し、聖書は主イエスの十字架の死と復活を指し示すのです。しかもその出来事は私共一人一人のために成し遂げられた神の御心であるとはっきり告げています。ですから教会に於いて御言葉が語られ、主のあがないの業が語られるというのは、まさに私共に対する神の御心が一人一人の存在と人生に具体的に示されているのであり、主がそれを完成して下さることが明らかにされているのです。

酸いぶどう酒を受けられた主イエスはかつて、「わたしの食べ物とは、わたしを愛する者の愛です。」と語られたことをご存知でしょうか。わたしは、平和をあなたに与え、わたしはこれを世に与えるように与えるのではない、心を騒がせるな。おびえるな。わたしは去って行くが、またあなたがたのところへ戻って来る」と言ったのをあなたに聞いた(ヨハネ14:26、28)と主イエスは語られました。教会はこの聖霊に導かれて主の十字架のあがないと恵みを御言葉と聖餐において繰り返し味わい、世の人々に向かって

お遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである(ヨハネ4:34)と語られました。ですから、ここでは十字架の苦しみと死の中に立つ主イエスが、私共のために父の御心を行い、その業を成し遂げておられることが証されています。

それ故にこそ私共も主の御受難の出来事と向き合う時、その御苦しみがこの私の救いのためであったという真実な告白なしに主の恵みを味わうことはできません。信仰を持って主の十字架の下に立ち、主の肉が裂かれ、主の血が流され、主の死によって神の裁きと義が全うされたことを聖霊の導きにあつて確認し、救いにあずかるのです。

そこでこそ自分の存在と人生に主御自身が深く関わっていることを確認するのであります。

主の再び来られる日まで常に主の死を告げ知らせるのです。また主の復活に示された永遠の命を告げ知らせます。それが伝道であり、教会形成の根幹です。

受難週は教会がそして疲れる人々が聖霊によって強められる時です。とりわけその信仰が強められ、証と伝道の業が強められる時です。私共の信仰をそして人生を主が導き、成し遂げて下さることを信じて、共にイースターの喜びに向かう時であります。

(静岡教会牧師、
教団総会副議長)



新報を一号発行することになり、十人もの関係者が、延べ数十回もの校正をしているのだが、それでも間違いは少なくない。漫然と読んでいては駄目で、例えば人名前を間違えていないかという一点に絞って探らないと見えない。同様に「用語の不統一はないか」「不快を与える表現は」と何通りにも網を下さす。引き上げても、大抵何もかからない。これを何度も繰り返しても、なお編み目(オト)を潜り抜けるものがある。粗探しは苦手だ。お人好しには無理だ」と叫ぶ編集委員もいる。

粗探しの対義語は何だろと考えている時に、フンアイズ・デイヴッド・アーモンド著「金原瑞人訳 河出書房新社」に出会った。「すくい子だねだね」「かわいんだねだね」と「ちよ」と言葉遣いがおかしくて、あらゆるものの中に天国をみつかることのできる目、「世の中のあらゆる苦しみの中に天国をみいだすことのできる目」を持ち、手に水かきがある女の子・ハプアイズが登場する。フンアイズこそ、粗探しの対義語か。フンアイズでない限りは何度も、何通りにも網を下すすしかな。一回一回に丁寧に。粗探しする程の熱心、執着を持って臨めば、どんな出来事の中にも、どんな人間の中にも、良いものを発見することができるかも知れない。

第一回委員会続々開催、活動開始

伝道に関する冊子発行協議

第36総会期の第一回伝道委員会が二月十六日、十七日、教団会議室において開



伝道委員会
後列左から、北川、山岡、小林、竹井
前列左から、竹内、岩田、米倉、
今泉幹夫(担当幹事)

伝道

林克哉(呉平安)、竹井真人(波浮)、竹内款一(神戸雲内)、山岡創(坂戸いずみ)、米倉美佐男(聖和/四月より札幌)の七名。組織編成では、委員長に米倉委員、書記に岩田委員を選任、関係委員会の担当者については、宣教委員会に米倉委員長、「こころの友」、「信徒の友」編集委員に北川、小林各委員、農村伝道に竹井、山岡各委員、刑務所伝道に岩田、竹内各委員を選任した。

「戒規処分申立書」の取り扱いを協議

教師

二月十七、十八日、教団(秋田校)を退出した。協議としては、今年六月十五日、伊豆の天城山荘で開催予定の新任教師オリエンテーションについて協議し、主題は「教団の教師として宣教を共に担う」を継続することとした。



教師委員会
後列左から、高橋敏通、張田眞、中川信明(職員)
中列、勝山健一郎(担当幹事)、西澤他喜衛、堀眞知子
前列、森里信生、松井、雲然

積み重ねられてきた多岐にわたる働き

教会教育セミナー今期も開催へ 教育



教育委員会
左から、佐藤飛文、清藤淳、平田和子、的場恵美子、黒田、山畑、北島、野村(担当幹事)

第36総会期第一回教育委員会が、二月四日、五日、教団会議室において、委員七名全員が出席して行われた。開会祈禱後、野村和正担当幹事より前期委員会の経過と当委員会の任務について教規に基づいて説明がなされた。次いで委員会組織

を諮り、委員長に黒田若雄書記に山畑謙を選任した。続いて委員会日程について、及び前期委員会からの申し送り事項を確認した。各活動の働きにそれぞれの担当委員を定め、その小委員会にて企画、検討、課題の整理を行い、委員会へ提案をするという形を今期も取

ることとした。当委員会の活動の主要な事柄として以下が挙げられる。教会教育プログラムの作成、キリスト教教育主事に関する件、教会教育セミナーの開催、クリスマス献金及び精進生徒表彰に関する件、青年に関する件、キリスト教幼児教育に関する件、キリスト教学校に関する件等。このように美に多岐にわたる働きであるが、これまで積み重ねられてきた働きを覚えつつ確認の作業を行い、各担当委員を決定した。

宣教基礎理論、信仰問答の作成検討

教 究 所

二月三日、四日に第36総会期第一回宣教研究所委員会が開催された。今期委員会組織は以下の通り。委員長宮本義弘、書記長谷川洋介、相浦和生、飯塚拓也、上田光正、神代眞砂実、田中かおる。



宣教研究所委員会
左から、飯塚、相浦、上田、勝山健一郎(担当幹事)、田中、神代、宮本、長谷川

また本委員会が新たに取組むべき事項について整理して話し合った。引き続き、引き継ぐべき事項の内、特に大きな課題としては、「宣教基礎理論」の作成がある。宣教基礎理論という名称については前期委員会より申し送られたが本委員会でも再検討し、前委員会がまとめた宣

とが教師委員会の大切な役割であることから、今総会期も教師委員会として各神学校を問安することとした(今秋実施予定である)。なお、同問安とは別に、関係神学校とは教師検定規則第4条(試験科目に関する規定)改正に関わる内容につき懇談の時間をもち予定であることを確認した。また、教師委員会に属する諸事項として、教師継続教育研修費、神学校日献金、神学校交付金、神学生奨学金、牧会者共同研修会といった事柄について、これまでの経緯や現状、および課題について理解を深めた。更に、教師に関わる事項として、今総会期では特に無任所教師の働きについて、その活動状況の把握等を検討することを話し合った。

信仰職制委員会が一九五九年に「日本基督教団信仰問答改訂版」を出しているの、これは全く別個に新たなものを作成するというよりも、現信仰職制委員会とも連絡を取りながら、また常議員会にも報告しながら

36回教団総会の議決を踏まえて、同申立書の取り扱いについては教団総幹事に問い合わせること、また、教師委員会としてこの件をどのように扱っていかかについて協議し、今後、更に継続して検討することとした。(雲然俊美報)

小規模教会負担金増危惧する意見

議長に岩崎隆氏復帰

川 奈 区 総 会

第二一回神奈川教区総会が二月二日、清水ヶ丘教会を会場に行われた。高柳電二議長が司式により開会礼拝が行われた後、正議員二五名中、一六七名で総会は成立。まず議長選

挙の予備投票を行った後、「正教師の按手礼執行に関する件」が上程され、四名の按手礼受領志願者の所信表明と質疑を経て、高柳議長が司式により四名の教師の按手礼式が執行された。



4名の教師の按手礼式が執行された

主な議案の一つは、09年度の教区活動基本方策および活動計画に関する件である。プロテスタント伝道150年を覚える旨の修正動議が出されたが、一五八名中、賛成六五で否決となり、原案が可決された。

続いて、09年度予算並びに各教会負担金割当案に関する件では、望月克仁財務部委員長がいつものように教区諸教会の教勢、財務状況などを詳しく分析、解説した上で予算案の説明を行った。予算は昨年度とほぼ同様の内容であるが、議論が集中したのは、各教会負担金割当案である。来年度は、財政規模の大きな教会で大幅に負担金が減額となる例があり、言わばその余波が諸教会に少しずつ影響を与えることもあって、と

懸案の責任役員会開催 第1回宗教法人日本基督教団責任役員会

宗教法人の職務は執行される。教団特別財産の処理方法については、毎総会期の三役会で確認し第一回常議員会に報告している。すなわち、一九七四年一月二九日開催の三役会の決定「責任役員会としては特に

アピールが行われ、午前にはランベルト・ヴァリー、アンジェリタ・ヴァリー、両宣教師が「海員宣教協力」のためのアピールをし、その場で席上献金が献げられた。海員宣教は神奈川教区独特の宣教の業の一つであるが多くの教職、信徒にとって活動の現場に触れる機会が少ないこともあり、関心や協力の盛り上がりには欠け、献金も目標額を大幅に下回っているのが

現状である。席上献金は六万八千円余りとなったが、今後さらに多くの協力が求められる。午後には教団年金局理事の中林克彦議員が、主に謝恩日献金の増額を訴えた。昨年度から謝恩日献金の目標が一億一千万円とされるに伴い、神奈川教区に期待される分は一千万円ほどとなる。金額を聞くとも負担感が大きい、教区内諸教会の聖日礼拝献金の平均から

すると2.8回分、あるいは經常収入の1%という具体的な例をあげて協力が呼びかけられた。

議長、副議長選挙、常置委員選挙の結果は次の通り。

【議長】岩崎隆(六ツ川) 【副議長】高柳電二(本牧)

【常置委員・教職】孫裕久(川崎戸手)、宇野信二郎(横浜大岡)、秋間文子(茅ヶ崎南湖)、池直人(藤沢大庭)、寺田信一(海老名)、川又志朗(横浜明星)

【常置委員・信徒】秦克彦(紅葉坂)、武田利邦(六角橋)、関滋夫(時田)、中林克彦(鎌倉雪ノ下)、数井紀彦(横浜指路)、杉森耀子(小田原十字町)

(藤盛勇紀報)

懸案の責任役員会開催

第1回宗教法人日本基督教団責任役員会

36総会期において第一回宗教法人責任役員会が二月四日、教団会議室で開催された。責任役員会は何処までさかのばればよいか分からないほど、実は開催されていなかった。だからと言って、宗教法人の職務を怠っているのではない。

あつた。第一回の責任役員会では、まず宗教法人責任役員会の職務の確認を行った。予算決算については常議員会における議決を責任役員会の議決とみなして取り扱って設置され、センターの自己決断を促している。日本基督教団に属するか、他の法人に属するか、独立の法人となるかである。教団に属することになれば、責任役員会が宗教法人の責任において管理することに

なる。出版局が借入れを行う場合、責任役員会の承認を得なければならないのである。尚、法人会計監査委員会から、会計監査委員会中間報告が行われた。その中で、「責任役員会」と「会計監査委員会」との綿密な連絡の必要性を指摘している。

出版局が借入れを行う場合、責任役員会の承認を得なければならないのである。尚、法人会計監査委員会から、会計監査委員会中間報告が行われた。その中で、「責任役員会」と「会計監査委員会」との綿密な連絡の必要性を指摘している。

出版局が借入れを行う場合、責任役員会の承認を得なければならないのである。尚、法人会計監査委員会から、会計監査委員会中間報告が行われた。その中で、「責任役員会」と「会計監査委員会」との綿密な連絡の必要性を指摘している。

(鈴木伸治報)

西東京 教区設立十年にあたって

吉岡光人

西東京教区は一九九九年に発足しましたので、今年で教区設立十年を迎えます。今年六月には十周年記念の礼拝が予定されており、この十年の歩みを小冊子にまとめる準備を進めています。西東京教区は決して順風満帆で始まったわけではありませんが、現在でも課題はたくさんあり、教区形成の大きな変革を皆が実感しています。しかし、信徒・教職の祈りと熱い思いが教区活動を推進させ、また他教

教区コラム

区の方々からの励ましも頂き、今日まで来ることができました。これからの十年は更に様々な問題に直面することでしょうが、主は必ずその民を正しく導いてくださるとの信頼を持って、教区形成を進めてゆきたいと願っています。教区設立の大きな動機は「教会を生き出す教区になる」ということでした。残念ながら未だに目に見える成果は得られていません。むしろ解散・合併・離脱などで教区数は設立時よりも減りました。

(西東京教区総会議長)

ブラジルの直接伝道へ

小井沼眞樹子宣教師派遣式



決意を力強く述べた小井沼宣教師

二〇〇九年二月十六日、教団会議室において小井沼眞樹子宣教師派遣式が秋山徹世界宣教師委員会委員の司式、木下宣世同委員会委員長の説教によって執り行なわれた。

同宣教師はブラジルメソジスト教会からの要請を受け、オランダ市のアルト・ダ・ボンターデ・メソジスト教会に赴任する。小井沼氏は所謂「コース

で教師検定試験を受験し、一九九六年に補教師の准允を受けた。その年にお連れ合いの小井沼國光氏と共にサンパウロ福音教会に宣教師として派遣された。

以降、國光氏が難病に罹り、二〇〇六年に帰国されるまで、孤独になりがちな日系の高齢者のためのデイ・サロン、シャロームを立ち上げるなど、ブラジルでの伝道活動に尽力された。その後ブラジル現地へのくすしき導きと縁があり、今回の派遣が実現した。木下委員長は、派遣宣教師のほとんどが現地の日本

人教会に携わっている中、現地の方々への直接伝道のために派遣されるのは特筆されるべきことであり、マケドニアに渡ったパウロのように神の召しと祝福と受け止めて赴任していただきたいと説いた。歴史的な都市であるオランダは同時に貧富の差も激しく、小井沼氏は最も貧しい地域にある教会に赴く。

派遣式後の茶話会では、お連れ合いを天に送った小井沼氏が再度ブラジルに派遣されることへの感謝や励ましが多く語られ、同氏も決意を力強く述べた。

訂正

4670号2面予算決算委員会報告欄氏名、寺門文男氏を「寺門文雄氏」にお詫びし訂正いたします。

すでに、小井沼宣教師と共に歩む会も結成され、支援活動が開始されたことが報告された。

二〇〇六年以降宣教師派遣が途絶えてきた南米教会との関係が、今回の派遣でさらに深められることが期待される。

同宣教師への支援に多くの方が加わることが願われる。

献身のとき

NOOSHIN
KENSHIN
NO TOKI

No.3



真理の主に圧倒されて

春原鈴子(東大和教会牧師)

れた以上、しっかり準備をする必要があるの思いで、また、大学生活に戻りました。

四年の神学校生活を終え、与えられた伴侶の卒業を待つ、二人で伝道する道を進みました。当時、東京教区西支区では、支区内の地図に、教会のある地域とこれから伝道しなければならぬ地域を提示して、開拓伝道の幻が、結婚した二人に与えられました。

一九四四年、青山学院高等女学部に入学して、初めて、聖書を手にした。兄の友人からのお下がり、文語体の分厚い聖書は、わけも分からず、興味も出ず、学内の礼拝でしゃべりをした。職員室に呼び出されて叱られたり、全くの門外漢でした。

戦後、友達に誘われて行った教会では、青年会で男性先輩方が真理論争の真っ最中でした。教会で終わらず、駅についても終わらず、渋谷の駅頭で立ち話が続きました。聞いていただけでも、心熱くされる論議でした。

やがて、私立中高(男子、一般校)の英語の教師となり、中学のクラス担任として、生活指導、人生指導等の課題に直面しました。教師という立ち場で、中学生の心の中に踏み込んで行けない焦りがありました。その時に、神が、方向転換を指示されました。当時はかなりの理屈屋だったのですが、神には理屈が通りませんでした(ルカ14章28、32)。両手を挙げて神に従うしかない定められた時、身も心も軽くなりました。ペテロ第一書1章8節の通りです。そして、伝道者としての呼び出しを受け入

会では、今、二巡目のヨシユア記です。開拓教会として、地域との関係を持つことも大切なことです。今は、バザーとクリスマス讃美の集いが根付いています。バザーには地域の方々が品物を届けて来られたり、楽しみに待っておられたり、良い交流があります。

ペアを組んだ夫は、一九九九年十二月、年末礼拝の翌朝召されました。神が手配された日程です。全く何もない状態で始めた開拓伝道で、無謀という声も聞かされたが、責任者である神に任せて続けてきました。多くの方々の協力や参加も与えられました。神は、人間の思いを遙かに超えて、奇蹟を示されます。永遠の主は、ご自身の御用に呼び出した者を豊かに支えて下さいます。神の真理に圧倒されて、聖書と取り組んできましたが、聖書は底なしの深さです。読む度に新鮮で、大きな感動を与えられています。

「なすべきことをなされたまへ」が、日々の祈りです(ルカ17章10節参照)。



2008年12月23日、クリスマス讃美の集い
地元ゴスペルグループを迎えて

日本伝道150年記念

記念行事のご案内

いよいよプロテスタント日本伝道150年を記念する年を迎えました。日本基督教団は、常議員会の決議に基づき、キリストこそわが救い」との標題と、「コリントの信徒への手紙 第一章十八―二十五節を聖句として掲げ、日本伝道150年記念行事準備委員会」において記念事業を計画しています。この事業を諸教会・教区においても覚えていただきたく願っています。現在計画されている行事を開催順に紹介します。

【日本伝道150年記念日本基督教団創立記念日礼拝】
◎日時 六月二四日(水) 午後一時三分
◎会場 富士見町教会
毎年教団創立記念日に教団として礼拝を行っています。今年も、本年はこれを伝道150年を記念して行います。この礼拝に併せて、在職50年以上の現職の教師への表彰を行います。リストを調査中ですが、おおむね七〇名の方々が対象となる予定です。

【日本伝道150年記念式典】
◎日時 十一月三日(月) 祝日 午前十時〜午後四時三分
◎会場 青山学院講堂
午前には礼拝を、午後一時三分から記念式典を行います。式典では、橋本徹氏、加藤常昭教師の講演、キリスト教学校聖歌隊、ハ

ンドベルの演奏などが行われます。また海外からも日本伝道150年の歴史に関わって下さった諸教派からの来賓をお迎えする予定です。

この式典の前日に「日本基督教団信徒大会」を行います。この企画・実行については東京信徒会の方々に委託しております。

【日本伝道150年記念日本基督教団信徒大会】
◎日時 十一月二日(日) 午後六時〜八時三分
◎会場 東京山手教会
ここでは、東京信徒会作成による「映像による日本伝道150年の歴史」が上映され、互いの交わりを深め、伝道への奮起の時とするための準備がなされています。なお、この映像は記念式典の中でも上映する予定です。



清風園のみなさん

(人ひととき番外編)

笑顔で形作る えがおの園

町田市金井 7-17-13
042-735-3000
特別養護老人ホーム・他



信仰に生きる「人」を紹介する「人ひととき」欄に、今号は、番外編として、人々を紹介した。教団新報4670号の「荒野の声」に、「笑顔」を主題としたコラムを載せたその翌週、下の写真に出会った。廊下に模造紙一枚を貼り合わせた分厚い台紙、そこに何十人もの顔写真が貼られている。近づいてよくよく見ると、一人残らず笑顔、にっこり、クスクス、破顔、笑いにもいろいろ個性があるが、全員笑顔。その笑顔が貼り合わされて、「えがお」の文字を形作っている。一人ひとりの小さな笑顔が、大きな「えがお」に。感動のあまり事務所を訪ねて、次第を尋ねずにはいられなかった。

この施設から近隣にある関係施設「第二清風園」に転動になった一職員が、その思いを込めて、置き土産として作成したものだと言った。キリスト教の隣人愛が滲み出ている。清風園では、日本基督教団の教会による月一回の定期的な聖書の会を始め、数多くの集いが

刑務所に赴く。月に一回であるが第四木曜日の午後としている。刑務所に行く私を送り出す連れ合いが、どの集会に行くときよりもうれしそうと言っている。うれしくもないが、キリスト教の教誨を希望し、一ヶ月間を待ち望んでいる人と思うと、足が軽くなる思いであることは確かである。

軽い足取りで

この日の教誨は四人の受刑者であった。実はこのころ数ヶ月は、教誨希望者は一名であった。最初、新しく四名の皆さんに教誨を行うことになった。キリスト教は初めての人は歌を歌う。その後は質問を受けた。か」との質問があった。十の戒め

を示し、これは神様が人間の生きに必要な基本的な生き方であると説明した。ふと皆さんを見るとうっわいしている。そうか、皆さんはこの十戒に触れるんだ」と言っていると、視線を落としたまま頷くのであった。

「殺すな、盗むな、偽証するな」...人間は基本的な戒めを守れないので、神様はイエス様をこの世に遣わされて救いへと導かれたことを教誨で示したい。出所時は主にあって生きること、足取りが軽くなることを願っています。
(教団総会書記 鈴木伸治)